



門司中だより

北九州市立門司中学校 学校通信
令和8年度 第3号 (R8.6.4)
発行責任者 校長 飯田 聖二
学校所在地 門司区丸山二丁目5番1号
TEL 093-321-3685

〇ビブリオバトル決勝戦

5月22日(金)放課後、図書室でビブリオバトル決勝戦を行いました。

発表順	年 組	氏 名	書 名
1	2-2	友瀬 羽海	すべての恋が終わるとしても
2	3-1	堤 蒼甫	#真相をお話しします
3	3-2	山縣 楓太	明智小五郎事件簿
4	1-1	松浦 由希菜	東大教授がおしえるやばい日本史
5	2-1	江本 祐希佳	モモ
6	1-2	三浦 泰資	やばい日本史
7	3-3	松田 篤門	正体

審査結果

最優秀賞:江本祐希佳さん 優秀賞:堤蒼甫さん

今回は、門司図書館館長 田中みのり様に特別審査員としてお越しいただきました。当日の皆さんの発表に対する講評をいただきましたので、紹介します。

「すべての恋が終わるとしても」

限られた文字数で相手に伝わる内容にするのは、長い文章を書くよりもはるかに難しいと思います。
140文字で、どう仲が深まっていくのか。
とても気になるとともに、文字数と恋愛の深さの関係性などいろいろと想像を巡らせてしまいました。

「#真相をお話しします」

YouTuberが職業として認知されたのが、ちょうど今の中学生が生まれた頃と記憶しています。
まだこの本は読んでいませんが、短編集だったらちょっと読んでもいいかな、という気持ちが湧きました。
普段は実用書のほうをよく読む、と言われてましたので、新しいジャンルの本を手にとられたのは図書館員としてうれしいエピソードでした。

「明智小五郎事件簿」

小学生の頃、学校の図書室にあった乱歩のシリーズが大好きでしたので今回、乱歩の作品がおすすめに挙げてあるのはとてもうれしく思いました。D坂の殺人事件は大人になってから読みましたが、あの格子の間隙のところ「そういうことか!」と興奮したのを覚えています。
「幽霊」は読んでいないので今度読んでみたいと思います。

「東大教授がおしえるやばい日本史」

まず目次に着目した、という点に思わず唸りました。

本には本文だけではなく、目次やあとがきなどいろいろなところに情報が散りばめられています。

これからも、目を凝らして、いろいろなところから自分に必要な、これ!と思う情報を見つけていってください。

「モモ」

エンデは 2026 年になっても自分の本が読まれるなんて考えたでしょうか。

「読んだ後は時間の感じ方が変わる」というようなことを言われたと思いますが、そのときに思わず時計を見てしまいました。

それもビブバトのテクニック。思わず「うわー、やられた!」と感じました。

「やばい日本史」

信長がとにかくイタイ大人だった!と言われたところに笑いました。

歴史上の偉人も、とてつもないことを成し遂げた半面、残念なエピソードが山のようにあって、話を聞きながら、「すごい」と「やばい」は紙一重だな、と思いました。

歴史はエンタメでもあるので、それを楽しんでください。

「正体」

本の内容はおすすめしても、読み方について勧める人は他にいなかったのも、ビブバトのポイントとして、とてもよいところだなと思いました。まだ読んだことがない作品だったので(映像化の作品も見ません)

自分なら一気に読むか、少しずつ進めていくかどっち派か試してみます。

門司図書館館長の田中様、お忙しい中、生徒たちの発表に対して、温かい講評をいただき、ありがとうございます。また、門司中学校の皆さんにもメッセージをいただきましたので紹介します。

今回、ビブリオバトルの審査員として参加させていただきましたが、本を読むのはあまり得意ではない人もいます。本を最後まで読めないのはダメなこと、とネガティブになっている人もいます。「読む」というのは、紙の本を最初から最後まで読み切ることだけではありません。写真を見て何かを感じる。イラストから気持ちや物語を想像すること。地図やマーク、記号の意味を読み取る。スマホで漫画を読むこと。それもみんな「読む」ことです。一冊を読み切れなくても大丈夫です。気になるところだけ読む。好きなページから読む。見出しや目次だけ読む。あらすじだけ読む。どんな形でも、言葉や情報、物語との出会いが大切です。

さまざまな本との出会いを求め、学校の図書館だけでなく、門司図書館にも足を運んでみませんか。

【保護者の皆様へ】

6月6日の体育大会に際し、たくさんのボランティアの登録をいただき、ありがとうございます。また、PTA役員の方々にもご尽力いただき感謝いたします。体育大会当日は、生徒たちの熱い演技にご声援のほど、よろしくお願いいたします。また、譲り合ってご観覧いただけますと幸いです。



※スナQのイラスト等に関する著作権・使用権は、北九州市に帰属しています。

上のイラストは、北九州市港湾空港局クルーズ・交流課の承認を得て掲載しております。